

## 【第28回環境審議会の詳細】

日時 平成30年11月13日 13:00～15:15

場所 ニセコ町役場第2会議室

出席 本間泰則委員、阿部武吉委員、猪狩和大委員、澤田健人委員、中川 明委員  
山本課長、大野係長、宮坂主任

欠席 柴田真年委員、黒滝 博委員、牧野雅之委員、丸山志織委員、葛西奈津子委員

### 主な内容

- ・平成30年9～10月に行った環境に関する主な取組
- ・駅前周辺エリアの熱ポテンシャル調査と熱供給システムの検討について
- ・第2次環境モデル都市アクションプランについて

## 1 開会

## 2 報告事項

【質疑・意見等】（・委員からの意見/質問 →町・クラブヴォーバンの回答）

- ・平成30年9～10月に行った環境に関する主な取組（資料1）

資料1について事務局より説明を行った。

- ・特になし

## 3 審議事項

- ・駅前周辺エリアの熱ポテンシャル調査と熱供給システムの検討について（資料2）

資料2について事務局より説明を行った。

- ・源泉温度37℃ではさらに温めなければいけない。その温度から熱回収は可能なのか。→シャワーなど給湯のための水を温めるのに使う。補給水の温度は10℃程度なので熱回収は可能。
- ・もともとの動力申請は37℃、300L/分だったのか。
- もともとは37℃、300L/分の動力許可をもらっていたが、現状はもっと低い温度のものが混ざった状態で、300L/分も使っていない。地域熱利用を想定して国の補助金をもらったが、周辺施設での熱利用は難しいことがわかり、綺羅乃湯のみに使うことに丁寧な説明が必要。

- ・第2次環境モデル都市アクションプランについて（資料3）

→前回の審議を踏まえて、今回は取組案の提案。策定目標（基本方針のフレーズ）にも触れていく。

資料について一般社団法人クラブヴォーバンより説明を行った。

- （クラブヴォーバン以下、クラブ）2つの重いテーマがある。①移動距離の短い街区づくり、②宿泊税
- （クラブ）5つの条例
- （クラブ）これらを網羅して取組を行っても7000tのみの削減で10%しか減らせない。
- （クラブ）2030年までに目標44%なので、加速度的な取組が必要。
- （クラブ）2050年に86%削減と仮定して、どのようなインフラが整備されていなければな

らないのかを議論。

- ・建築物の低炭素化を促進する条例をつくるのにハードルはあるか。内容はいいものだと考えるが、条例制定の仕組みがよくわからない。
- 今回の提案で5本くらい必要なもので、この条例単体の話ではないが、関係者の合意を得るのに時間がかかるかもしれないのと、この条例は建築確認が民間でもできるようになったので、条例が浸透するまでの間は問題が起こるかもしれない。
- ・ニセコ町で家を建てる人は町外事業者に依頼することがほとんどなので、町外の事業者への周知を考えなければいけない。
- (クラブ) 建築団体や管内の事業者への事前アナウンスと研修会を実施することを想定。条例の可決から施行まで1~2年かけて、その間に研修会をやり、例えば町内の事業者は無料で研修を受けられるなどを考えている。事業者にとっても悪い話ではない。新たに燃費を数字で出せるようになるので、イメージで売っている大手に勝つ営業ツールになる。
- ・エネルギー情報の提供を求める条例について、今までエネルギー情報を出していた電力会社が出さなくなった理由はなにか。
- (クラブ) 発電と小売が自由化された背景から、企業秘密という名目で発電・小売会社という立場で拒否するようになった。こちらとしては、あくまで送電会社としての情報がほしいが、全国の電力会社が情報を出さなくなっている。今まで町からのCO2排出量に用いていた数値が得られなくなってしまった。
- ・尻別川の水力発電の電力を購入しても1800tしか減らないのか。
- (クラブ) 水力発電の生電力300万kWh購入するという条件での数値。具体的にどのくらいの生電力を購入できるかは今後の交渉になる。ただ、今後RE100など再エネ100%の電力を求める企業が増えていくので、再エネ電力は取り合いになる。この電力だけに依存するのではなく新電力もLPGで自ら作るということが大事。
- (クラブ) また、この水力発電の電力購入を増やしてCO2削減をしたとしても、地域の価値を高める取組や住民にとっての課題を解決できるわけではない。CO2だけ減ってもそこに住んでいる人が幸せにならないのであれば意味がない。しかし、元々86%削減の根拠としていたので、第2次アクションプランでも放棄しないで残すことにした。
- ・「森林経営管理法」に関しては、ニセコ町は製材業者がいない中で、この法律の施行によって短伐期で皆伐してしまうと景観が壊れてしまう可能性もある。町にとって木材のニーズもそんなにないので無理に進める必要はないという意見もある。景観などに配慮する内容を盛り込んで欲しい。
- (クラブ) 役場の体制が変わったときにコンセプトがないと景観破壊につながる恐れがあるので、コンセプトをきちんと持っているべきと考えた。コンセプトを作成するというだけでなく、長伐期や間伐、価値の高い造林の大切さなど言葉を盛り込むようにする。
- (クラブ) コンセプトやビジョンを示さなければ森林管理や考え方を守っていけなくなるのでそれは避けたい。ニセコの価値を守るだけでなく、高めていくのが今回の提案の根源にある。
- ・森林環境税についても言及してはどうか。いずれにしても慎重に議論を進める必要がある。
- (クラブ) 森林環境税は国が一律で徴収し自治体に配布するお金だが、自治体の裁量が大きいの。役場と住民の議論が必要。森林のために使う税だが、幅広いので配慮が必要。
- ・「移動距離の短い街区」について小さな集落をあちこちにつくるものと理解したが、ニセコ町全体で考えたときに、家が点在しているので、役場周辺しか集住化のイメージができない。
- (クラブ) 5~6軒程度でも十分集住化といえる。数軒でも集まれば、消費活動が増える

- 可能性は高まるし、行政コストの効率化にもなりやすい。本来は都市計画があると良いが、ニセコ町は制定できないため何もない中で進んでいくのは避けたい。
- （クラブ）住宅は大きな一軒家に高齢者が1人で住むなどミスマッチが起きてきている。そういう方が同じ町内の集合住宅に移ってもらえたら友人も失わないし、徒歩圏で生活できる。空いたところに子育て世代が入ることもできる。そうした移住、集住化も同時に考慮したい。
- ・ 宿泊税については以前から議論しているが、倶知安町が先行してニセコ町では進んでいない。アクションプランに位置づけられることで進展が加速するか。
  - ・ 宿泊税の還元方法がわからないので、反対の立場。税の利用方法や目的、還元方法がわかれば良いと考える。
- （クラブ）税というより組合費というニュアンス。国際環境リゾート都市のブランド価値を高めることになる。
- ホテルの場合、ゴミ処理に税金を使うなど出口をはっきりさせるのが大事だと考えている。
- ・ 例えば入湯税の使い方に関して、不透明な中でさらに新たな税というのは説明できない。
- （クラブ）目的税なので、目的をしっかりとる。例えばグリーンシーズンの観光が増えていてE-bikeの導入に使うなどニセコ町の価値を高めていく取組につながり、相互にメリットのあるものであればよいのではないか。
- （クラブ）この用途をどこまで広げられるかは今後の課題。
- ・ 市民エネルギー会社はどのように組織するのか。
- （クラブ）町民には呼びかけるがあくまで最後は町民の意志。
- （クラブ）これまでのワークショップ等で要望があったため盛り込んだ。条例や計画を整備しておくことで、今後住民の中からやりたいという声があがってくることを期待している。11/11に上映会のあった「おだやかな革命」は全国各地で住民が地域エネルギー会社を設立したドキュメンタリーである。岐阜県の石徹白地区では集落100人全員から出資してもらい小水力発電を作った。それが若者の移住を呼び込み、小学校の維持につながっている。
- （クラブ）市民エネルギー会社はそこまで難しくない。専門知識がない方でも支援する団体があるので、やる気があればできる。
- ・ 去年の地域エネルギー会社のための視察調査報告は全く別の内容だった。
- 去年は鳥取県鳥取市、福岡県みやま市、熊本県小国町に視察にいった。そのときはどこかノウハウを持つパートナーと組む必要があると感じた。
- （クラブ）3事例とも電気を売る会社という意味である。今回の提案は、市民が電力小売ではなく発電する会社、あくまで発電部門を立ち上げる。
- （クラブ）地域エネルギー会社と市民エネルギー会社はそれぞれ別の意味の会社になる。役場の屋根を貸して太陽光発電をするのは、発電部門の市民エネルギー会社。
- （クラブ）日本で市民エネルギー会社がドイツのように普及しなかったのは、FIT制度の買取価格が初期に高く設定されてしまい、民間事業者による利益事業の構図が出来上がってしまったことによる。数年度に市民が立ち上がったときには系統連携の許可が下りない、有利な土地の問題がないという問題があった。
- （クラブ）建物における自家消費メインの低圧太陽光発電は可能なので、価格が低下したときにやるべき。
- ・ 新庁舎の建設もしながら、同時に取り組めるのか、時間とお金が確保できるのか心配。
- （クラブ）アクションプランは5年間の計画であり、予算は最終的に議会の承認が必要。今回のアクションプランは強制力があるわけではないので、必ず実現するとは言いえない。

ただ、企画環境課では予算を組んで、推進していくということに見込みはある。

→（クラブ）環境モデル都市、SDGS 未来都市に選定されているので、国の補助金も優先的に採択される。

・CO2 削減量については整理されているが、予算スキームについても一覧表を作成してほしい。

→（クラブ）今日の審議会、住民説明会で取組内容の理解を得られたら、計画書作成のタイミングで、金額等のスキームがわかるように仕様書に指示されており、1/15 の次回の環境審議会ですすようにする。次回は将来像が見えるように専門家にグラフィックレコードも描いてもらう予定。

・内容が専門的なので有識者からのコメントは心強い。

#### 4 その他

・11/13 の 18 時から町民センターで住民説明会、来年 1/15 の 18 時から次回の環境審議会を町民センターで開催。

#### 5 閉会